

令和3年7月10日

# 稲作情報 第5号



中央部営農センター	TEL: 22-2127	北部営農センター	TEL: 65-2016
東部営農センター	TEL: 55-4712	西部営農センター	TEL: 32-3160
営農経済部米穀課	TEL: 27-1601	秋田県農業共済組合 由利支所	TEL: 24-3301
由利地域振興局 農業振興普及課	TEL: 22-8354		

7月は重要な栽培管理が盛りだくさんです。暑くなりますので、熱中症等に十分に注意しながら作業を行いましょう。

## ●第2回統一草刈り期間について

秋田県病害虫防除所の予察によると、今年のカメムシの発生量は多いとなっております。水田内の雑草だけでなく、農道・畦畔の徹底した草刈りで斑点米カメムシ類の増殖を抑制しましょう。

また、草刈り禁止期間もありますので守って頂くようお願い致します。

## ★草刈りスケジュール

第2回統一 草刈り期間	草刈り禁止 期 間	へり防除	草刈り（へり防 除後7日間）	草刈り禁止 期 間
7/10～20	7/21～末	8月上旬	8月上旬	～8月末

## 【草刈り時の注意事項】

- ①水田内の雑草（ノビエ類、カヤツリグサ科雑草）の防除をしっかりと行う。
- ②草刈り禁止期間の草刈りはカメムシの圃場内への侵入を助長します。
- ③一斉へり防除を実施した圃場については、防除直後**7日間**以内に**防除圃場周りの農道・畦畔の草刈り**を行う。
- ④防除直後の草刈りは、8月1回目の一斉防除後のみの1回とする。

## アカスジカスミカメについて（斑点米主要種）

体長は約5.5mmと非常に小さく、更に淡い黄緑色で稲の穂に色が似ていて、目で見つけることは難しいです。雑草（ノビエ・カヤツリグサ科）に産卵し、出穂期以降に水田へ侵入し、もみ殻の隙間からストローのような形状の口をさし、吸汁します。品種特性上割れ粳が多いあきたこまちは特に注意が必要です。



## ●水管理について

6月も極端な高温となる日が多く、7月以降も高温となる日があると思われます。幼穂形成期～刈取り前の落水時期までは水管理が非常に大切な時期となります。高温時に水が無い状態が続くと、水分不足ストレスで稲体が消耗し、登熟が停滞します。水管理のポイントを確認しましょう。

## 【水管理のポイント】

- ①追肥の肥料分が十分に溶出し、稲が吸収するためには、水と温度が大切になります。温度は確保しやすい時期ですが、水は圃場の水利条件等が異なりますので、可能な範囲で理想に近い水管理をお願い致します。
- ②水管理の理想は**2湛3落**（2日間湛水状態とし、3日間かけて自然落水）です。土壌に酸素と水分を交互に供給し、稲体の活力を高めましょう。減水深の大きい圃場については、入水と落水のタイミングを短くするなど工夫をお願いします。
- ③低温が予想される場合は、深水管理で幼穂を保護しましょう。
- ④この時期は台風などが管内を通過する可能性があります。まとまった降雨の後には**フェーン現象が発生する場合があります**。フェーン現象により、乾燥した強風が吹く場合は湛水状態とし、枯れ上がりを防ぐようにしてください。

## ●追肥について

追肥はJAで行っている生育診断等を参考としながら行って下さい。令和2年産については倒伏した圃場が多く見られましたが、降雨が続き、中干しが出来なかったことにより、根が十分に張れなかったことが倒伏に大きく影響したと考えられます。追肥量を極端に控えてしまうと、出穂期以降に稲体が活動するための栄養が不足し、玄米品質が低下してしまいますので、稲体の色や草丈を見ながら、生育診断の結果をもとに適切な範囲で追肥を行いましょう。

## ★肥料の種類と投入量（10aあたり）

窒素成分量/肥料名	追肥化成545 (15-4-15)	追肥専用しんせい535 (15-3-15)	尿素複合212 (20-10-20)
	現物量	現物量	現物量
窒素成分量 0.8kg	5.3kg	5.3kg	4.0kg
窒素成分量 1.0kg	6.7kg	6.7kg	5.0kg
窒素成分量 1.2kg	8.0kg	8.0kg	6.0kg
窒素成分量 1.5kg	10.0kg	10.0kg	7.5kg
特徴	有機質成分は入っておらず化成のみの低コスト穂肥肥料。	アンモニア態窒素が主成分で持続せいのある尿素も入った追肥専用肥料。	尿素主体の窒素で肥効の長い追肥専用肥料。

## ●ヘリ防除について

ヘリ防除については、各地区の防除協議会から発表されるものをご確認ください。

### 【個人防除を行う方】

個人防除を実施する場合は、一斉防除の日程に合わせて防除を行って下さい。

1回目にスタークル剤を使用し、2回目の防除を行う場合はキラップ剤を使用して下さい。

スタークル剤 (出穂10日後頃)	粉剤DLを使用する場合 → 3~4kg/10a 液剤を使用する場合 → 100~150L/10a (1000倍)
キラップ剤 (出穂期24日後頃)	粉剤DLを使用する場合 → 3~4kg/10a 液剤を使用する場合 → 100~150L/10a (2000倍)

## ●いもち病防除について

いもち病の発生予察は平年並みとされており、多くは無いようですが、7月の天候次第では好適感染日となる日があると予想されます。萌えみのり作付け圃場（隣接する圃場も含めて）ある場合は、防除を徹底しましょう。

### 【葉いもち】

7月に日照が少なく、降雨等で多湿となる日に発生しやすくなります。特に山間部は注意が必要です。

#### ★防除剤

ブラシン剤	粉剤DLを使用する場合 → 3~4kg/10a フロアブルを使用する場合 → 100~150L/10a
(追加防除の必要に応じて)	
ビーム剤	粉剤DLを使用する場合 → 3~4kg/10a フロアブルを使用する場合 → 100~150L/10a

### ～病斑の特徴～

病斑の中心部分は白くなっている。

病斑のふちの部分は茶色く変色している。

病斑の形状はひし形のようなものになる。

培土機の燃料が葉につくと酷似した斑点がつくことがある。

判断がつかない場合は営農センター等にご相談下さい。



### 【穂いもち】

葉いもちが多発している場合や、上位葉にいもち病が出ている場合、多発しやすくなります。出穂期前後の多湿、8月下旬～9月の多湿等で発生する。

収量に直接的に影響を及ぼします。

#### ★防除剤

コラトップ粒剤5 3~4kg/10a 又は コラトップ粒剤12 1~1.5kg/10a

※使用時期は出穂の7~15日前です。

**早急な発見と早期防除が重要です。疑わしい症状が見られる場合はご相談下さい。**

### ～お知らせ～

由利本荘市スマート農業研究会の実証事業で今年度2回目となるICT技術のデモンストレーションを実施致します。草刈りや追肥など忙しい時期となりますが、興味のある方はぜひ見学にお越しください！！

#### 1.日時

令和3年7月20日（火） 14:00～ （本荘地区 松ヶ崎）

#### 2.場所

由利本荘市松ヶ崎字上堀切仮地番18（松ヶ崎・亀田ICを降り亀田駅へ向かう道中）

#### 3.内容

リモートセンシング（生育解析）結果に基づく可変施肥実証（無人航空機による肥料散布）

#### 4.雨天時の対応

雨天時は中止と致します。小雨でも行いません。

#### 5.新型コロナウイルス感染防止対策について

- ・参加者は検温等を実施し、症状がないことを確認し、参加願います。
- ・マスクの着用をお願いします。
- ・事務局では、参加頂いた方の名簿を作成し、感染者が出た場合、参加者

## ●稲作メールマガジンについて

メールマガジンをご活用頂いている方が増えてきました。随時、生育ステージや天候に合わせて参考となる情報を配信して参りますので、登録していない方はぜひ登録し、ご活用下さい。

